

- 1.
- 38) UNESCO/IASH, 1970 b: Seasonal snow cover, Technical papers in hydrology 2.
- 39) UNESCO/IASH, 1970 c: Combined beat, ice and water balances at selected glacier hasins, Technical papers in hydrology 5.
- 40) 吉野正敏, 1968: 気候学, 地人書館.
- 41) 若浜五郎, 1970: アラスカの氷河の消長および氷河サージについて, 文部省科部研究費報告気候変化の水収支に及ぼす影響, No. 2, 93-110.
- 42) 渡辺興亜, 1969 a: 氷河の分類とヒマラヤ地域の氷河の特性, 文部省科学研究費報告, 氷河について—ヒマラヤ地域氷河調査のための指針, 2-7.
- 43) 渡辺興亜, 1969 b: 1968年度罌沢圏谷における氷河学的調査の報告, 日本雪氷学会, 昭和44年度全国研究発表大会, 富山.

第17期 第9回常任理事会 議事録

日時 昭和48年4月16日(月)14~17時

場所 気象庁海洋気象部会議室

出席者 磯野, 小平, 二宮, 河村, 窪田, 北川, 川村, 丸山各常任理事

列席者 中村庶務委員

報告

〔庶務〕

- 1) 3月22日, 常任理事会の議決により, 各支部長あてに「賛助会費による学会の増収についてのご願い」を発送した。

〔ノート〕

- 1) 気研ノートに「質疑応答」「追加解説」欄を新設することにした。

〔講演企画〕

- 1) 夏期大学講座は, 7月30日~8月2日の4日間に変更した。
- 2) 関西支部と共催の「メソ気象シンポジウム」は, 6月8~9日に京都で開催する。
- 3) 秋季大会のシンポジウムは「新しい計測法とその利用の展望」とする。

〔長期計画〕

昨年5月に長期計画発表後の活動状況

- 1) 当面の重点的活動として, 学会支部活動を盛んにすることと, 全国大会での集中講義・セミナーの実施を提起した。
- 2) 研究者の育成と水準の向上の面で, (1)大学院での講義, 指導の充実, (2)研究を生かせる就職先の拡大, (3)気象庁における研究環境の確立を提起した。
- 3) 会員を多方面から迎え入れることをよびかけた。
- 4) 機関誌の内容充実を実現するために, 学会財政の改

善を図る必要がある。

〔南極〕

差し当たり次のことを行なう。

- 1) 各機関および会員への呼びかけ。
- 2) 天気に南極研究観測の経過と文献目録の掲載。
- 3) 本年秋季大会に「南極」のセッションを設け研究発表を募る。

議題

- 1 総会準備について。

- | | |
|---------------|----------|
| 1) 事業経過報告(要綱) | } 原案了承 |
| 2) 事業計画(要綱) | |
| 3) 昭和48年度予算案 | } 一部修正了承 |
| 4) 昭和47年度決算 | |

- 2 その他

- 1) 次の学術賞, 学術奨励金候補者推薦要綱を承認
学術賞・学術奨励金候補者推薦要綱
1. 被推薦者は会員に限る。
 2. 推薦実施の決定は原則として常任理事会で行う
 3. 会員の応募, 推薦申出があるとき, 担当理事は資料意見等を付して常任理事会に提出し, 必要があれば, 2名以上の会員の意見を徴して資料とする。会員の申出によらず常任理事の発議で推薦を行うこともできる。
 4. 同一候補者, 同一題目については4回以上連続して推薦することは行わない。ただし研究内容に著しい発展があるときはこの限りでない。
- 2) 賛助会員勧誘計画表(案)を承認
承認事項 通常会員黒田隆ほか19名, 賛助会員東洋理化学工業株式会社の入会を承認。